

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード		2-1-1			事業名	協働による冬期歩行環境の改善	
担当	建設局土木部雪対策室計画課 田村 TEL211-2682						
全体計画							
事業内容	冬期の横断歩道や歩道では、つるつる路面によって毎年多くの人 が転倒し救急搬送されている。 このため、市民・企業・行政が協働により歩行環境の改善を図り、 安全で快適な冬みちを目指す。				<年度別の事業内容>		
					平成19～22年度 (1)企業名入り砂箱の設置 (2)砂まき活動の実施 (3)自発的な砂まき活動の推進		
事業内容 <							

施策体系コード	2-1-1		事業名	協働による冬期歩行環境の改善		
達成目標の状況						
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (実 績)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
市民による砂まきの割合の増加	57%	56%	61%	57%	70%	70%
企業名入り砂箱の設置数	79基	103基	109基	122基	132基	160基
市民・企業等との協働の状況（市民・企業等の参加、支援、協力の状況）						
■市民との連携、市民参加 「ウィンターライフ推進協議会（会長：北海道大学 高野准教授）」が国土交通省の社会実験として「つるつる路面特派員」と「砂まきサポーター」を募集し、市内のつるつる路面情報を収集し、その情報をホームページおよび砂まきサポーターへ発信した。 参加者：157名 ■企業等との連携、協働 企業名入り砂箱の寄贈数：13基 協力店舗・商店街数：962店舗 地域住民自らが滑り止め材を散布等（地域と創る冬みち事業）：126町内会 ■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 人通りの多い地下鉄・JR駅周辺の交差点を中心に砂箱を600基以上設置するとともに、持ち運びに便利な砂入りボトルを公共施設（区役所など）に約20,000本配置した。						
評 価（ 成 果 ）			課 題			
平成21年度の市内全域の転倒による緊急搬送件数は672件で、平成20年度と比べ137人（約17%）減少している。これは平年と比べ降雪も少なく、全体的に滑りやすい路面状況の発生が少なかったことが大きな要因と考えられる。しかし、少なからず転倒事故を予防する方策として、各種の啓発活動を行ったことや、砂まきの取り組みが徐々に浸透してきていることも救急搬送件数の減少に結びついていると考えられる。 【累計降雪量】 ・平年：630cm ・H20年度：489cm ・H21年度：485cm			冬期の歩行環境の改善は、市民要望も高く重要な課題の一つとなっている。しかし、つるつる路面は瞬時に広範囲に発生するため、行政だけの取り組みでは対応ができず、市民や企業による砂まきの協力がなにより必要となっている。 また、現状の砂箱や砂入りペットボトルが必ずしも利用しやすいものになっていないという意見がある。			
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向						
冬期の歩行環境の改善には、市民・企業・行政の三者が一体となって取り組むことが必要である。このため、市民・企業へのPRを強化するとともに、ウィンターライフ推進協議会などの民間組織とのさらなる連携、砂箱の改良などについて取り組むことを検討する。						

(単位:千円)

施策体系コード	2-1-1		事業名	協働による冬期歩行環境の改善			
事業費の推移							
項目			19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費		—	—	—	—	—
	財源内訳	国・道支出金					
		市の債					
		その他の一般財源					
予算	事業費		2,300	2,300	0	0	4,600
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0
		市の債	0	0	0	0	0
		その他の一般財源	0	0	0	0	0
実績	事業費		2,300	2,300	0	0	4,600
	財源内訳	国・道支出金	2,460	0	0	—	2,460
		市の債	0	0	0		0
		その他の一般財源	0	0	0		0
事業費の進捗率			(H19実績＋H20実績＋H21実績＋H22予算事業費)／(計画事業費)				—
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
〔全体〕							
〔19年度〕							
〔20年度〕							
〔21年度〕							
〔22年度〕							